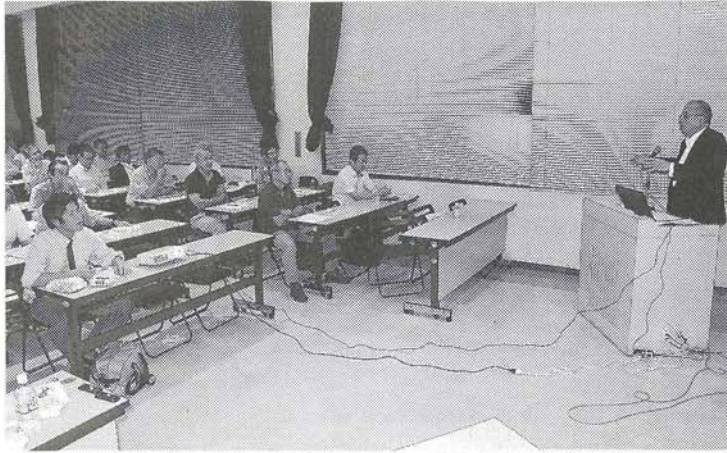


県対外関係補佐官 東郷さん講演

# 「水をいかに残すか」

GW三島

駅前整備 景観、町づくり語る



三島駅前整備の進め方について独自の见解を示す東郷さん(右)＝三島市の市民文化会館

NPO法人グラウン  
ドワーク(GW)三島  
は5日夜、三島駅前整備  
についての講演会を

三島市民文化会館で開いた。講師の県対外関係補佐官・東郷和彦さんは、三島の魅力に触れながら今後の同駅前整備の在り方や方向性について講演した。東郷さんは外務省入省後、在米勤務やオランダ大使など外交官としての要職を歴任した。これまでに訪れたオランダの町づくりに「結婚や安楽死など個人の自由が尊重されている国だが、家を建てることに厳しい規制がある」といい、建物の内装は自由でも外観は公共財にあたり、みん

なで相談して屋根の色や形などを決めなければいけないと紹介した。「ルールに従って建てることで良い景観が形成される」と話した。

また、「静岡でこれが一番美しいと聞かれれば三島と答えるが、このまま市が提案する整備が進めばそうは言えなくなる」といい、「高い建物はそれだけ重さもあり、湧水にも

影響がでる。水をいかに残すかが大切」と力を込めた。さらに、これからの高齢化社会で木よりも高い建築物は少ないという。最後に、「高層ビルが乱立

した三島には魅力がない。伝統文化と調和した町づくりを進めていくべきだ」と締めた。同NPOの渡辺豊博専務は「たぐさんの人たちが協力してつくり

上げたのが今の三島。これからも施設についての考え方や意見を集め、市に建設の有無を判断してもらおう材料を増やしていきたい」と話した。